

「三重の「暮らし」から SDGs を考える」をテーマに、次の4つの側面からの懇談となります。

- ① (朴) 三重大学伊藤学長の環境・SDGs 方針策定(日本の国立大学初)によって、三重大学の教育、研究、社会貢献は、環境・SDGs 活動のトップランナーとして繋がっていることを話します。特に、今年は、四日市公害訴訟判決50周年となる年なので、四日市公害の教訓から学び、持続可能な社会三重形成のために若者は何をすべきかについて考え、アクションプランを作ります。

6月には「第16回環境マネジメント全国学生大会」が三重大学で開催されるので、四日市公害の教訓を活かした、持続可能な社会、カーボンニュートラル社会形成について考え、アクションプランとなる「三重宣言」を行い、日本全国にアピールすることを話します。

また、12月には「第10回日本サステイナブルキャンパスネットワーク(CAS-Net JAPAN)」の年次大会が三重大学で開催されるので、三重大学の環境・SDGs の取り組みについてアピールし、日本の諸大学との連携により、さらなる発展的展開を図ることを話します。

- ② (小西、陶) 三重大学の学生からの環境・SDGs 発信について、昨年7月に伊藤学長と教職員、学生代表との「環境・SDGs 懇談会2021」において結成された「三重大学学生環境・SDGs プラットホーム」を積極的に活用して、個々のクラブやサークルの環境・SDGs 活動だけでなく、スケールメリットを活かした、発展的展開を図ることを話します。

特に、「ESD-SDGs クラブ」は、環境保全活動の一例として、トヨタ自動車(株)主催の「トヨタソーシャルフェス」において、三重大学の環境ISO学生委員会や環境・SDGs クラブ、サークル、三重中高生、三重県、松阪市、企業、住民、メディアと共に伊勢湾最大級の松名瀬干潟での海岸清掃活動や生物多様性を守る環境学習を行うことを話します。

また、SDGs の目標達成による持続可能な社会とカーボンニュートラル社会三重創生のために2020年に三重県が発足した「ミッションゼロ2050みえ」の若者チームのメンバーとなり、地球温暖化防止に向けた若者の政策提案などを積極的に行なっています。また、三重県のグローバル学生大使ともなり、日中韓を含む国際交流においてもリーダーシップを発揮しています。

③ (朴) 三重の環境文化から考える SDGs の先進性について、伊勢神宮の式年遷宮から考える SDGs (環境文化の継承、常若、人材育成 (宮大工)) について話をします。式年遷宮は、1300年以上続く、日本・三重の環境文化は、SDGs の原点であることを話します。私たちは、温故知新の言葉を思い出し、過去の歴史から学び、今を知り、夢と希望が持てる未来の描き、既成世代と若者との協働による、21世紀の持続可能な社会、カーボンニュートラル三重社会を創ることが求められていることを話します。

④ (朴、小西、陶) 三重の暮らしの知恵から学び、知の拠点で、地域共創大学の三重大学は、持続可能な社会三重・カーボンニュートラル社会三重形成のトップランナーとして、グローバル人材 (地球規模で考え、地域で頑張る人材) を育成し、国内外へ積極的にアピールしていることを話します。

11月にエジプト・シャルムエルジェイクで開催予定の、気候変動枠組条約第27回締約国会議 (COP27) に参加し、三重大学、三重県の環境・SDGs 活動及び持続可能な社会三重、カーボンニュートラル社会三重創生について積極的なアピールを行います。昨年11月にイギリス・グラスゴーで開催された COP26 においても、朴 恵淑特命副学長が参加し、毎日、国連関係者、政府関係者、大学、NGO とのイベントを持ち、三重大学、三重県の環境・SDGs 活動の紹介など積極的な活動を行いました。

出演者の朴 (韓国人)、小西 (日本人)、陶 (中国人) の多様な国籍の3人が集まったこの場所こそ、多様化、国際化が実現できる場となっていることを話します。

最後に、番組 DJ から、番組協賛金の一部を三重大学に寄付する説明について、朴 恵淑特命副学長からお礼の言葉を述べて終了となります。